

2018 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	遠藤 洋二
研究テーマ	大学に設置された避難所を利用する市民を支援する人材を育成するための学習プログラム（産学官民協働モデル）開発に関する研究

<助成研究の要旨>

代表研究者が所属する関西福祉科学大学は、避難所および福祉避難所として柏原市から指定されたことを受け、市民・柏原市・柏原市社会福祉協議会等と協働して、「大学を拠点とした災害福祉支援モデル」を策定する取組みに着手した。当該モデルを策定するにあたっては、「誰がどのように支援するのか」が課題であり、支援組織の編成、支援者の育成は重要な要素となる。

そこで本研究では、避難所における福祉的視点の支援を行うために必要な枠組みを抽出し、そこから策定した学習プログラムを用いた講習会を学生・市民・市役所職員・関係職員を対象に実施した。

研究成果としては、以下のプログラムを開発した。

①避難所支援員養成講座（実務者対象）（今後は、「災害福祉支援入門講座」）

自治体、社会福祉協議会、避難所設置機関の職員等を対象にした講座のプログラムを、柏原市・柏原市社会福祉協議会・研究グループが共同で開発し、関係者を対象とした講座を2回実施（1回はモデル実施）した。本講座は、避難所で暮らす災害時要援護者を中心とした被災者に対する福祉的視点の支援に焦点をあてたものであり、来年度以降は、本学において継続的に実施し終了者を組織化して大規模災害に備えるなど、実践的な活動に活用する予定である。

②避難所支援員養成講座（学生対象）（今後は、「災害ソーシャルワーク入門講座」）

宮城県南三陸町をフィールドに、社会福祉を学ぶ学生が、被災者に対する福祉支援（災害ソーシャルワーク）の意味と方法を理解するための講座として、一般社団法人南三陸研修センターと研究者グループが共同でプログラムを開発し、南三陸町において講座を2回実施（1回はモデル実施）した。本講座は、避難所で暮らす災害時要援護者を中心とした被災者に対するソーシャルワークアプローチに焦点をあけるとともに、学生が災害を身近な課題であることを理解することを目的としており、今後も南三陸町において継続的に実施するとともに、学生教育のカリキュラムにも活用することを模索している。

③避難所支援ゲームの開発

静岡県が開発した避難所 HUG をベースに改良し、柏原市から指定されている本学の体育館をモデルとした避難所支援ゲームを開発した。当該ゲームは、災害時要援護者への配慮や避難所の暮らして起こりうる様々な課題とその解決を疑似的に体験し、防災への関心を高め避難所運営の方法を学ぶためのゲームであり、市民・学生（大学生・高校生）を対象に実施していくことを想定している。

※ 避難所 HUG は静岡県が著作権・商標権をもっており、本研究において開発したゲームは「HUG 福科大バージョン」として、現在、静岡県に使用承諾申請を行っている。

上記のプログラムはいずれも特定の地域を想定したものであり、今後は、全国各地で当該プログラムをベースにカスタマイズできるよう、その方法論についても提示し、広報活動も併せて行っていきたい。